

連載41

そして音楽の旅は続く

渋谷のJZ-Brat、観客は錚々たるメンバー

ジャズボーカリスト
星乃けい

official website
<https://www.hoshinokei.com>



▲渋谷のJZ-Brat
セルリアンタワー東急ホテルの2階
写真はホームページから

2005年12月14日にジャズ歌手としての1枚目のCDが発売され、Swing Journal、Jazz Life、CD Journal、Stereo Soundなどジャズ誌、オーディオ誌からの取材が始まりました。撮影も久しぶりだったので緊張しました。また、高音質のレコーディングだったのでオーディオマニアの方々からも高い評判をいただき、ヨーロッパのオーディオメーカーさんも広告に使ってくれてビックリ。私はポップスからジャズへの参入なので取材の中で「これまでのジャンルを唄うのと、ジャズを唄うというのは何が違いますか?」という質問には考えさせられました。ジャズを始めて日が浅いのに、難しい。少しお時間をいただいて「同じです。心を込めて一生懸命に唄うことに変わりはないです」とお返事しました。やっぱり原点がブレてしま

うと、どんなジャンルも唄うことはできないと思います。まずは一生懸命に唄って、ジャズは時間をかけて経験を積んでいこうと今でも思っています。

さて、ジャズを初めたばかりの私に、どうしてレコーディングや取材などのチャンスが訪れるのかしらと思われるかもしれませんが、それはきっと私が音楽業界という一つの世界にずっと居たからだと思います。売れようが売れまいが、表舞台でも縁の下の力持ちでも、ここにしか居場所はなく、ネットワークもここにしかないのです。なので私がジャズを唄い始めたと昔のディレクターが聞きつけて、レコーディングの話が決まったし、各雑誌社の取材もしていただけました。世の中には私のまったく分からない業界がたくさんあってお恥ずかしい次第ですが、一つの世界をずっと生きていくのもいいもんだなあと思っています。そのディレクターのおかげで良い状況でCDを発売できたし、とんとん拍子に進み、私は彼の音楽出版社に所属しました。そして「CD発売記念LIVEをやりましょう!どこですか?」と聞かれて「渋谷のJZ-Bratでやりたい~!憧れのマリーナ・ショウの唄ったステージに立ちたいです」。決まってワクワクしました。当日はレコーディングのメン

バーに来てもらったので音楽面での不安はなかったのですが、お客様のご予約リストを見て驚愕。ユニバーサルミュージック社長、ビクター社長、エレック社長、チャゲ&飛鳥事務所社長、肩書だけを見るとビビりそうな面々がズラリと。でもお名前を見ると、どの社長も若いころにお世話になった方々ばかりで、この日は社長という立場ではなく「よう子ちゃん(本名)がジャズを唄うんなら応援に行くよ」って来てくれたのでした。ほんと、泣きたいくらい嬉しかった!



Photo: Yoshiro Yasuda

2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価支持される。